第５学年２組　体育科（保健領域）学習指導案

第２校時　場所　５年２組教室　授業者　村上　朋美（T1）
安倍　堅介（T2）

１　単元名　　～けが攻略シートを作って臨海学校に役立てよう～（「けがの防止」）

本校の保健室では１日平均２０人のけがの来室がある。小さな切り傷から、捻挫・骨折の疑いのあるものなど、けがの種類は様々であるが、けがに至るまでの自分の行動や周囲の環境については意識が向いていないことも多い。日常の行動や環境の中にけがや事故の要因があるにもかかわらず、それに気付かずに、何度も同じようなけがをして手当てを受ける実態がみられる。また、発育測定時の保健指導で、基本的なけがの手当てについては学んでいるものの、適切でない方法で対処し、知識と行動が結びついていない子どももいる。

子どもたちには、けがの背景には、不注意や心・体の状態等の人の行動や周囲の環境等が関係していることを理解し、安全な生活を営むための実践力を身に付けてほしいと願う。

本実践では、５年生の行事である臨海学校を安全に過ごせるように、また万が一けがをした時に学校外の場所でも迅速に正しい対応ができるように、「けが攻略シート」を作成する取り組みを行う。臨海学校と本単元を関連させ、実際の場面を想定しながら危険を予測し、予想されるけがに最も適した手当の方法を考えることで、切実感をもって学びをすすめられるようにする。安全な行動を選択・判断する能力や、実生活に生きる知識・技能を身に付け、「自分の体は自分で守る」意識をもって生活していこうとする子どもの姿を目指す。

２　単元について

⑴　本単元では、けがには人の行動と環境が関わることを理解するとともに、けがの悪化を防ぐための簡単な手当の知識や技能を身に付けること、また、けがを防止するために、危険の予測や回避の方法を考え、それらを表現することをねらいとしている。

本実践では、５年生が経験する臨海学校を安全に過ごせるように、また万が一けがをした時に学校外の場所でも迅速に正しい対応ができるよう、「けが攻略シート」を作成する取り組みを行う。臨海学習と本単元を関連させ、危険を予測し、自分の行動に注意を向けられるようにすることで、より切実感をもって学びをすすめられるようにする。

⑵　４年生の体育科保健領域の単元である「体の成長とわたし」では、よりよく発育・発達していくための行動について考えてきた。５年生では「心の健康」の単元も学習し、自分の心と体の健康を守る行動を考えていく。本単元では、けがが起こる原因や防止方法および応急手当について考えることで、けがを防止し、けがに適切に対処する力を身に付けていく。これは、６年生「病気の予防」においての、健康で安全な生活を営む資質や能力を育む学習へとつながっていく。

⑶　本単元に関する子どもの実態は、次の通りである。（調査人数：３６人）

①　臨海学校で予想されるけがについては、「クラゲにさされる」が１２人で最も多い。

②　知っているけがの手当てについては、擦り傷や切り傷の時は傷口を洗う、打撲ややけどの時は冷やす等、主なけがに対して適切な処置の知識がある子どもが多い。一方で、擦り傷や切り傷の時には消毒が必要と答えた子どもは１４人いる。

③　自分でけがの手当てをした経験のある子どもは３２人いる。

3　単元の目標

⑴　交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止には、周囲の危険に気付く、的確な判断の下に安全に行動する、環境を安全に整えること等が必要であることを理解できる。

⑵　けがの防止に関わる事象から課題を見付け、危険の予測や回避をしたり、けがを手当したりする方法を考え、それらを表現することができる。

⑶　けがを防止しようという意欲をもつとともに、けがを防止するための方法や自分でできる簡単な手当の方法について、実践的に生かそうとしている。

4　指導計画　（６時間取り扱い）

事前	総合的な学習の時間に、臨海学校での目標や活動内容について学習する。その中で、海や砂浜、利用する施設や場所の特徴を理解していき、自分の行動を予想しながら、どの場所でどのようなけがが起こりそうか想起させておく。

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	1　事故やけがの発生要因について考える。	○　けがの原因を考えさせることで、けがには人の行動や周囲の環境がかかわっていることが理解できるようにする。 ○　けがの原因を考える際に、自らの経験を想起させることで、日常生活と結びつけて、けがの原因を捉えられるようにする。	【思】自分のけがに関わる経験を振り返ったり、学習したことを活用したりして、危険の予測や回避の方法を考えたり選んだりしている。 （観察・ワークシート）
2～4	2　交通事故や身の回りの生活の危険，自然災害が原因となって起こるけがの防止について考える	○　小学生の交通事故や犯罪被害の状況や要因について調べさせ、事故やけがを防止する方法を考えられるようにする。 ○　地域にある安全を守る施設についても提示することで、事故やけがの防止について視野を広げて追究できるようにする。	【知】事故を防ぐには、周囲の状況をよく見極め、危険に早く気付いて、的確な判断の下に安全な行動が必要であることを理解している。 （ワークシート、観察）
5・6	3　状況に応じたけがの手当について考える	○　臨海学校で起こりそうなけがを予想し、けが攻略シートにまとめていくことで、切実感をもってけがの手当てを考えられるようにする。 ○　作成したけが攻略シートを更新し、より実践的な手当を行えるようにする。（本時６／６）	【主】臨海学校を安全に過ごすために、けがをした時にも迅速に正しい手当てにつなげ、自分の健康は自分で守っていこうとしている。 （観察、振り返り）

事後	完成したけが攻略シートは、自分が必要だと思うものをしおりに綴り、臨海学校に持参し活用できるようにする

５　本時の学習

⑴　目標

友達との交流やロールプレイでの実習を通して、臨海学校での具体的な場面と想定されるけがの適切な手当てを関連付け、けがの手当への捉えを更新できるようにする。

⑵　展開

時間	学習活動	子どもの思い・姿
１０	１　本時の課題を捉える。	○　砂浜も熱くなっているだろうから、〇〇さんが言うように、足の裏のやけどもありそうだ。 ○　ぼくは普段海にいかないから、クラゲにさされないかとても心配している。 ○　すり傷を洗うための水が必要だな。でも、水道って、どこにあるんだろう。 ○　自分で考えた時はけがの手当てに自信があったけど、臨海学校で実際にできるのか段々と不安な気持ちになってきた。
１０	２　より活用できるけが攻略シートについて話し合う。	○　けがをした人の手当ての手伝いをしてあげたいけど、そういえば先生に知らせる係がいるのかもしれないな。 ○　鼻血が出た時は、ティッシュは近くにないかもしれないけど、自分のタオルなら近くにあるから使えそうだね。その後は先生に任せた方がよいのかな。 ○　やけどの手当てに使う氷は、さすがに自分たちで用意はできないね。救護の場所がどこか確認してすぐに知らせることができるようにしておこう。周りの環境のことも考えた方が役に立つシートになりそうだね。
２０	３　けが攻略シートを再考する	○　圧迫することが大事みたいだから、とりあえず自分の手で鼻をつまむことのほうがすぐにできるかもね。 ○　僕は保健係だから、けがをした人のお世話を中心にするよ。〇〇さんは、先生に連絡する係をお願いね。やっぱり、実際にやってみるって大切だね。 ○　他の班から、砂浜は暑いから涼しい場所に連れて行った方がいいよっていうアドバイスをもらったよ。なるほど、その方が落ち着いて手当ができるし、回復のために安静にもできるね。　シートに付け加えておこう。 ○　そうだね。けがした上に熱中症になったら活動ができなくなるからね。 ○　実際に動いてみて、当日の動きが想像できてきた。当日、友達に何かあったらすぐに行動したい。
５	４　本時の学習を振り返りを行う。	○　先生を頼りにしすぎるのではなくて、自分たちでできる手当を素早くできるように意識しておきたい。 ○　けが攻略シートを活用して、臨海学校が充実したものになるようにしたい。

子どもたちは、臨海学校で利用する施設や場所の特徴を理解し、どのようなけがが起こりそうか予想しています。本時では、具体的な場面と想定されるけがに対する適切な手当てを関連付け、必要な情報を付け加えながら、自分たちの役に立つけが攻略シートに作り変えていきます。

主体的・対話的で深い学びを生み出す教師の支援（発問・指示・教具・評価）

【教材・教具】
- ○　学習支援アプリ
- ○　大型テレビ
- ○　けがの手当ての根拠を示す資料
- ○　けが攻略シート

○　前時で作成しておいたけが攻略シートや振り返りを提示し、数名の子どもの考えを取り上げ，その思いを共有し，けが攻略シートの不十分な点がないか見直す機会を設定する。その際，実際に臨海学校で活用できそうか問いかけることで、現状の攻略シートでは、具体的場面の想定が不十分であることに気付かせ、課題を設定する。(T2)

> より活用できる臨海けが攻略シートにするためには？

○　グループで、より活用できる攻略シートにするために、必要なことを話し合わせることで、自分たちのシートの不十分な視点に気付けるようにする。　(T2)　その際に話し合いが停滞しているグループには、臨海学校の場面を想起させることで、場面と関連付けてけがの手当を考えることができるようにする。(T１T2)

○　机間指導の際に,「場面にあっているか」「協力してけがの手当にあたっているか」「自分たちでできることや大人に任せることを区別しているか」という視点に気付いているグループを見取り，情報交換しておく。(T1T2)　全体の場で，視点が子どもたちから出てきた際には，すみやかに手当をすることでけがを早く治すことにつながることを価値付ける。出てこなかった際は，養護教諭が，けがの手当をする上で大切な視点であることを知らせる。(T1)

○　グループでシートを再考させる際には、より活用できる攻略シートにするためにはどんな活動が必要か問いかけることで、子どもたちが思いをもって試行錯誤できる機会を設ける。また、養護教諭が、試行錯誤しながらけがの手当について理解する重要性を話すことで、子どもたちが必要感をもって、ロールプレイに取り組めるようにする。(T１)

○　ロールプレイをする中で、「クラゲにさされた時は擦り傷や切り傷の手当てが使えるのか」と今までの知識の活用の仕方に迷ったり、「学校外の場所で、限られたものしかないのに手当ができるのだろうか」と不安に思ったりする様子が見られた場合に、養護教諭は、必要に応じて手当の意味を説明できるような科学的な資料を提示できるようにしておく。(T１)

○　自分たちでシートを再考し、満足感を得ているグループには、他のグループと相互評価を行うよう促すことで、客観的にけがの手当について捉えられるようにする。

○　「けがをしたことを先生に報告する」という、けがの手当だけでなく、その後の行動に着目できているグループの考えを全体でとりあげ、安全な行動を判断することに対する見方や考え方を広げられるようにする。(T1T2)

○　友だちとの交流で考え方が深まったり、自分たちのシートを見直したりしている子どもの姿を見取り、情報交換し子どもの学びを価値づけることに生かせるようにする。(T1T2)

【評価】
臨海学校でおこりそうなけがと適切な手当を関連付け、場面と自身の行動が、より明確なけが攻略シートを作成することができる。
（発言・けが攻略シート）